

TIRI NEWS

1

都産技研から未来へ、先端技術情報を発信 2013 Jan.

特集 都産技研ブランド試験 1

▶ 騒音を防ぎ、 快適な音環境を創造する 音のスペシャリスト

REPORT 2012年秋の展示会・イベント

▶ サイエンスアゴラ2012 第15回産業交流展2012

平成25年、
都産技研は、中小企業の皆さまとともに歩み、東京都の産業の発展と
都民生活の向上に技術の力で貢献します。



新たな価値を 創出する さらなる飛躍の年に

理事長
片岡 正俊



新年あけましておめでとうございます。

都産技研は一昨年10月に臨海副都心に本部が開業し、昨年は本部、多摩テクノプラザ、城東支所、墨田支所、城南支所の5拠点体制を確立して、中小企業への技術支援サービスの拡充に努めました。その結果、平成24年度上半期の実績として、主要事業である技術相談は60千件、依頼試験は65千件、機器利用は46千件のご利用をいただきました。また、震災復興支援事業も継続し、放射線測定、省エネ節電技術支援、さらには被災企業への料金減免など、多くの中小企業にご活用いただいております。あらためまして御礼申し上げます。

さて、都産技研は平成23年度開始の第2期中期計画に沿って、自らの技術、製品で市場に打って出るいわゆる開発型の中小企業支援に力を入れております。中小企業とはいえ自ら市場ニーズを把握し、売れる製品開発、プロダクトイノベーションを進めていかなければなりません。

都産技研ではそうした企業を支援するため、次のとおりの活動を展開しております。

1. 海外進出支援サービスの開始

中小企業が自らの製品を海外でビジネス展開する際に必要となる国際規格、海外規格への適合性に関する情報提供、専門相談、適合性試験等を行う「広域首都圏輸出製品技術支援センター」を昨年10月に設立いたしました。東京、埼玉、千葉、神奈川、長野の1都4県で共同運営することで、より多くの規格に対応し、企業の海外進出を積極的に支援してまいります。

2. プロダクトイノベーション支援の強化

開発型中小企業に必要な機能を集約した3つのセクターがよく利用されております。平成24年度上半期で合計39千件のご利用をいただきました。最先端のテクノロジーを支援する「高度分析開発セクター」、売れるものづくりをデザイン面から

支援する「システムデザインセクター」、高信頼性製品の開発支援を行う「実証試験セクター」のさらなる活用をお願いいたします。

3. ブランド試験の充実

他県公設試ではあまり行われていない都産技研ならではの試験をブランド試験と呼び、「音響」、「照明」、「高電圧」、「非破壊透視」、「ガラス技術」の従来5分野に、「環境防カビ」、「放射線」の2ブランド試験を追加いたしました。こうしたブランド試験を新たに活用して、高付加価値の製品開発支援を進めてまいります。

低迷する日本経済、長引く不況に打ち克つていくためには、まず中小企業が元気にならなければなりません。都産技研のさらなる活用をお願いするとともに、この平成25年が皆さまの飛躍の年になりますことを祈念しまして、新年の挨拶いたします。

騒音を防ぎ、 快適な音環境を創造する 音のスペシャリスト

都産技研は、「音」の技術分野を総合的に支援している

唯一の公設試験研究機関です。

無響室、半無響室、残響室、結合残響室を設置し、

騒音対策や超音波測定、音質評価など

より高品質な技術支援を行います。

音に関するさまざまな試験に対応

家電製品、パソコン、防犯ブザーなどの音響・振動分析、低騒音機器、音響関連機器の開発支援、機器や装置の音響分析や騒音発生源の特定、心理や感性を考慮した騒音分析、材料などの遮音、吸音性能の測定・評価を行っています。

依頼試験

- 残響室法吸音率測定
- 垂直入射吸音率測定
- 周波数特性測定
- 周波数分析
- 音響透過損失測定
- 音圧・騒音・振動レベル測定
- 指向特性測定
- 制振性能測定
- 音響パワーレベル測定
- 波形分析

～担当研究員から～

音に関する総合的な支援を行う「音響試験」



光音技術グループ
副主任研究員
渡辺 茂幸

■試験の目的はどのようなものですか？

音響試験は大きく分けて、機器から出る騒音の大きさを測定し音の特性を調べる試験と遮音や吸音など建材等の音響性能を調べる試験の二つがあります。音の性能評価、完成した製品の品質チェック、開発中の製品の材料選定、騒音へのクレーム対応など、さまざまな目的で試験を行っています。

■試験を必要とする製品や、

よく利用されるお客さまの業種は何ですか？

特に多いのはプリンタやパソコンなどの情報機器、防犯ブザー、空調、掃除機や扇風機などの電化製品、医療機器などです。

遮音・吸音では特に建材メーカーが多く、パーティションや道路用防音パネル、ドアや椅子などの製品を試験しています。

■試験をすることで得られるメリットは？

一つめは製品の信頼性向上によるビジネスチャ

ンスの拡大です。製品の性能を把握・評価し、必要に応じて改善策を提案するなどしています。二つめは製品イメージの向上です。製品から出る騒音の原因を究明し、改善点を提案し、製品の付加価値を高めることで会社や製品イメージの向上につながります。三つめは海外市場への進出や新規市場への参入です。海外での販売・事業展開を目指しているお客さまの製品が、国際規格に対応しているかを調べ、輸出をスムーズに行うために支援します。

■お客さまへのメッセージ

東京都の計量証明事業所に登録していますので、要請があれば工場や道路などの騒音試験などに、職員やエンジニアリングアドバイザー・技術指導員などの外部専門家が外向いて、現場の問題解決、技術支援(実地技術支援)を行っています。そのほか、音について問題や疑問等がありましたら、まずはお気軽にご相談ください。

導入している主な試験設備

(騒音対策など)

音の特性を調べる試験



無響室

機械装置の騒音を測定

適用分野

●各種機器

パソコン、掃除機、扇風機、照明器具、在宅医療機器、電源装置、モーター、コンプレッサー、トランス、スイッチ など

●音響機器

スピーカー、イヤホン、ヘッドホン、マイク、防犯ブザー など



半無響室

機械や音響機器から発生する音源を測定

適用分野

●各種機器

パソコン、プリンタ、在宅医療機器、電源装置、モーター、内燃機関 など

●超音波応用製品

電動歯ブラシ、超音波振動子 など

(遮音性能・吸音性能など)

音響性能を調べて評価する試験



残響室

建材などの吸音性能を測定



垂直入射吸音率測定装置

適用分野

●各種建材

壁材、床材、椅子 など

●防音製品

遮音壁・防音壁、遮音パネル・吸音パネル など



結合残響室(タイプⅡ試験室)

建材などの遮音性能を測定

適用分野

●各種建材

壁材、床材、ガラス など

●防音製品

遮音壁・防音壁、遮音パネル・吸音パネル、防音シート など

●建築部材

サッシ、ドア、間仕切壁、パーティション、換気扇、ダクト管などの小型建築部品 など



重量床衝撃源

大電力パルスマグネトロンスパッタリング(HiPIMS)

新しい成膜技術を研究

都産技研ではHiPIMSによる成膜装置を導入し、新しい成膜法について研究を開始しています。

■ 表面の皮膜をコーティングするPVD手法

工具や摺動部品では、その特性を向上させるために表面に皮膜をコーティングすることがよくあります。その手段の一つとして、PVD(Physical Vapor Deposition: 物理気相蒸着)という方法が用いられます。これは、減圧した空間で表面に付けたい原料を固体から熱や放電エネルギーによって気化し、気化した粒子を部品にぶつけて表面に皮膜を形成する手法です。さらに、原料と反応するガスを入れると、ガスと反応した化合物の皮膜を形成することもできます。身近な応用例では、ホームセンターに行くときに見る先端が金色のドリルは、ドリルの先端に摩擦しにくい、チタンと窒素の化合物(TiN: 窒化チタン)の皮膜をこのPVDという方法によって付けています(図1)。

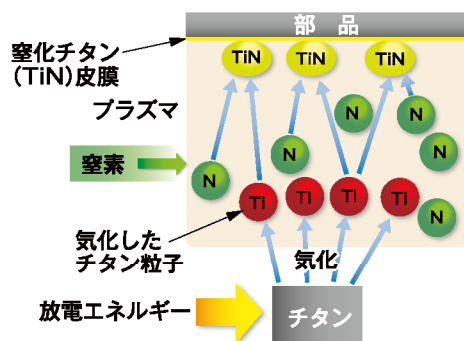


図1 窒化チタン(TiN)コーティングの例

PVDに分類される成膜法はたくさんありますが、中でも、合金や高融点材料の成膜が可能という利点を持つスパッタリングという方法があります。

これは、材料と部品の間に高電圧をかけ、電圧によってイオン化(+の電気を帯びる)した粒子が材料にぶつかって材料粒子を叩き出し、部品表面に成膜する手法です(図2)。

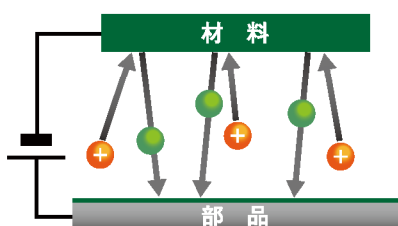


図2 スパッタリングの原理

■ より硬く緻密で滑らかな成膜が可能に

PVDでは、成膜の際に大量の粒子を高速でぶつけることによって、硬く緻密な皮膜を形成すると言われています。そこで、大量の粒子を高速でぶつける手法として、最近、大電力パルスマグネトロンスパッタリング(通称 HiPIMS: High Power Impulse Magnetron Spattering /HPPMS: High Power Pulse Magnetron Spattering)という手法が提案されています。これは、気化した粒子をぶつける際に、まず、磁石(マグネトロン)によって発生する磁場でイオン化してプラスに帯電した粒子を材料の近傍にためておきます。次に、パルス状の高電圧をかけることによって、電圧がかかった瞬間にためた大量の粒子を高速で部品にぶつけて成膜する方法です(図3)。

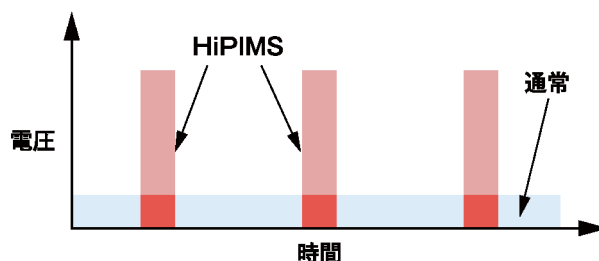


図3 成膜法による電圧のかけ方の違い

本手法では、従来の連続した、少しずつ皮膜を形成する方法に比べ、パルスが出ている瞬間の高電圧によって高速の粒子を大量にぶつけることを繰り返しながら皮膜を形成するため、従来よりも硬く緻密で平滑な皮膜ができます(図4)。

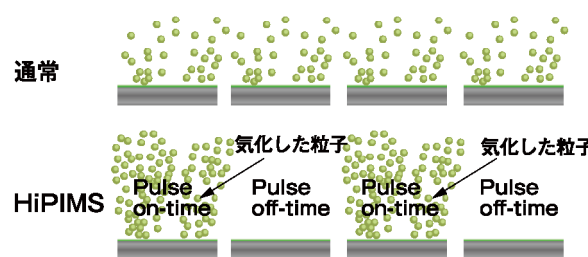


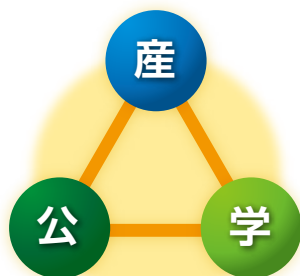
図4 HiPIMSと通常の成膜手戻の違い

(本記事に関しては、下記連絡先までお問い合わせください。)

表面技術グループ <本部>

渡部 友太郎 TEL 03-5530-2630

E-mail: watanabe.tomotaro@iri-tokyo.jp



シリーズ 第3回

産学公連携コーディネータに聞く

中小企業の技術開発や製品開発の過程でさまざまなサポートをする都産技研の「産学公連携コーディネータ」。日頃受ける相談や、サポート内容の実際をご紹介します。

小西 穎 コーディネータ 本部



Profile

KHE代表。東芝など数社で研究開発、事業開発、研究所マネジメント、医療事業の事業計画、技術開発などに従事。平成24年4月から産学公連携コーディネータに。現在は、カナダ・アルバータ州政府認定登録国際ビジネスコンサルタントとして技術やビジネスの連携を国際的にサポート。

小西CDの担当曜日
毎週月曜日9時～17時

依頼者は常に新たなチャレンジをする経営者だから、どんな課題の依頼も相談に乗ります

都産技研の産学公連携コーディネータ(CD)に中小企業の経営者から寄せられる相談は、新規事業へチャレンジすることから生じる問題に関するものが多く、内容也多岐にわたります。具体的には、

- 事業目的に合った技術の提供、または協力会社の紹介
- 新たな発見をしたので、それを解明してくれる大学の先生の紹介
- 新規事業をするために必要となる技術や研究の調査
- 事業計画の作成方法の指導
- 特定製品の開発を依頼できる協力先の探索等です。

いずれも切実なご要望ですので、「どのような依頼にも、必ず対応し返答する」というのが私のモットーです。

そして、相談の中から何が課題であるかを分析し、問題解決に直接つながるサポート内容や方法を考えることが、コーディネータの役割だと考えています。

難しいのは、やはり何が問題点なのかをはっきりさせることです。規模が大きい案件だと、どこを切り口に考えたらいいか迷うことがあるのですが、事業計画を書くなどして検討することが大事だとお伝えするようにしています。大学や他の企業などに協力を求める場合は切り口を特定した上で、どのように提案するかを依頼者と一緒に考えますね。

依頼先の大学などは、都産技研からの相談や依頼ということで、協力的で、かつ真摯に検討してくれます。ニーズが合えば、共同研究や共同開発の決定も早い。その点も、都産技研を活用するメリットであると言えます。

●事例紹介

A社の場合〔産産連携の例〕

A社は、特殊な電気ワイヤを開発。その応用製品として携行機器を開発していますが、電源の消費量が問題になっており、解決を望むという相談がありました。

相談→共同研究までの経緯

- 小西CD、低消費電力を実現する技術を調べて、適合する電気回路をA社に提案。
- A社、携行機器のサンプルを試作後、ビジネス展開について相談。
- 小西CD、サンプル評価をしてくれるB社を紹介。
- B社、フィールド評価試験中。
- 小西CD、携行機器がバッグ型のため、繊維製品評価やアパレルデザインを扱う都産技研の墨田支所にも協力を依頼。縫製技術についてのアドバイスを行う。



小西CD

電気・電子回路は私の専門分野の一つ。大学との共同研究を多数行ってきた経験を生かして、具体的なアドバイスもしています。

Message 中小企業の皆さんへ



ビジネスはシーズたる基礎技術から始まり、製品やサービスの事業計画を経て実際の事業が始まります。事業も、初期製品で終わるのか、シリーズ化を図るのか、ひとつのサービスなのか、多様なサービスまで事業化するのか、その時の経営資源や需要と市場規模の状況で変わります。その時々ので会社の資源と市場ニーズに合ったビジネスをアドバイスし、サポートすることができますから、都産技研の産学公連携コーディネータを長期的に利用していただきたいですね。

継続的でも断続的でも、長く利用していただくこと。それが、依頼にいられた中小企業のお客さまにとって、メリットが大きいと思います。

レーザー干渉計

～平面・球面・非球面レンズの表面形状測定機～

近年、光学製品の高性能化を背景に、レンズの加工精度の向上が求められています。作成したレンズ形状を精密に測定する、レーザー干渉計をご紹介します。

1 レーザー干渉計の特徴

今回導入したレーザー干渉計は、Zygo社製のVeriFire Asphere (VFA)と呼ばれるフィゾー型干渉計です。高精度に加工された平面原器および球面原器を参照面として使用することで、平面・球面・非球面レンズの反射波面測定を高精度に行うことができる装置です(図1)。また、位相シフト干渉測定技術と、レーザー測長システムによるステージ移動の制御機構を搭載しており、超高精度な曲率半径測定が可能です。さらに、形状測定は633nm He-Neレーザーを光源とする面測定で行うため、短時間で簡易に、レンズ表面の三次元形状が測定できます。

2 基本的仕様

光源: 633nm He-Neレーザー

垂直分解能: 0.08nm

CCD画素数: 992×992ピクセル

測定物サイズ: 1～130mm



図1 レーザー干渉計(VFA)

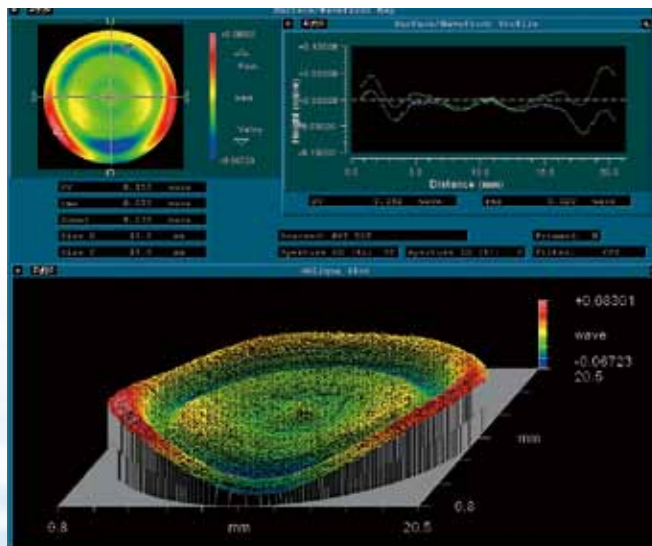


図2 非球面レンズ測定結果

3 測定結果の解析方法

レーザー干渉計によるレンズ形状測定結果については、原器を基準とした理想的な形状(平面レンズでは理想的な平面、球面レンズでは一律の曲率を持つ曲面、非球面レンズでは非球面理論式などの設計値)からの三次元的な偏差として表示されます(図2)。このため、レンズ表面のどの部分が、目的と違った形状(凹形状・凸形状の違いなど)に加工されているかを检查することができます。これにより、レンズ加工と形状測定を一連の流れとしたトライ&エラーを行うことで、目的としたレンズ形状作成における加工条件が確立できます。また、非球面レンズ測定では、レンズ作製時の非球面理論式(設計値)をソフトウェアに登録することで、その式に基づいた測定プログラムが自動的に作成され、測定が行われます。このため、簡易かつ短時間で非球面レンズ形状の測定が行えます。

本装置は、各種レンズの形状測定に利用でき、取得画面の三次元座標値も表示可能です。依頼試験等については、お気軽にお問い合わせください。

高度分析開発セクター <本部>

徳田 祐樹 TEL 03-5530-2150

E-mail: tokuta.yuuki@iri-tokyo.jp

サイエンスアゴラ2012

11月10日・11日、都産技研をはじめその周辺施設(東京・お台場)において「サイエンスアゴラ2012」が開催されました。都産技研では都産技研体験見学ツアーや、ものづくり体験教室を開催しました。

■大人も子どもも楽しめる都産技研体験見学ツアー



「ものづくり」に使われるさまざまな設備・装置を公開する、体験見学ツアーを実施しました。高電圧放電装置による落雷の実験や、無響室での音が全く響かない世界など、はじめて体験する「ものづくり」の世界に、大人だけではなく多くの子どもたちも楽しんでいました。



■ものづくり体験教室



「ペットボトルで掃除機をつくってみよう」

ペットボトルを利用して、サイクロン式ミニ掃除機を作りました。空気(気圧)のしくみを学びながら、工作を行いました。



「ハイドロカルチャー(観葉植物)をつくろう」

リサイクルガラスを利用したガラス発砲体を使ったハイドロカルチャーを作りました。カラフルに仕上がった観葉植物はご家庭のインテリアに。



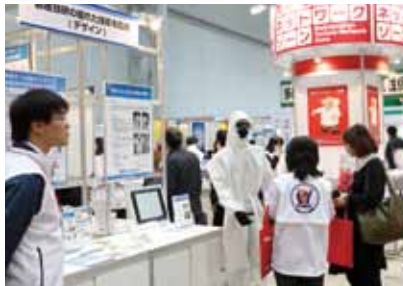
「熱転写プリントで巾着袋をつくろう!」

熱転写プリントでの巾着袋づくり体験を開催しました。参加者それぞれが好きなオリジナルデザインで、世界にひとつの巾着袋を作りました。

第15回産業交流展2012

11月20日～22日、東京ビッグサイトで開催された「産業交流展2012」に出展しました。今年は、都産技研ブランド試験や都産技研の優れた技術に応用した製品、新事業創出への取り組みをご紹介します。設備紹介や実演ステージなどを行いました。ご好評の本部見学ツアーも開催しました。

■都産技研の優れた技術に応用した製品を展示



流動性・耐久性複合被覆材料、アクリルレーザーカットの製品開発、東京スカイツリー観光グッズの製品開発、ディズニーキャラクターの商品開発など、環境・デザイン分野で都産技研の技術に応用した共同研究の成果や製品をご紹介します。

■都産技研 新事業創出への取り組み



環境・省エネへの取り組み、T型ロボットによる事業支援、容器材の付加価値製品への適用など、都産技研が取り組んでいる環境・省エネ、EMC・半導体、メカトロ、バイオ応用技術に関する研究や活動をご紹介します。

■多くのお客さまにご覧いただいた実演ステージ



実演ステージでは「新開発成形体『サスティモ®』への漆職人による絵付け実演」や「ゴム材へのDLCの成膜とその効果」「高精度FBG温度計の紹介」「照度調整可能な照明省エネシステム」「サービスロボット事業化支援T型ロボットベースの実演」を行いました。

■都産技研本部見学ツアーを開催



展示会場から本部まで無料送迎バスを運行し、多くのお客さまに、造形室や環境試験室、高電圧実験室など、本部の設備をご覧いただきました。



展示会出展情報

『第3回クルマの軽量化技術展』に出展

多摩テクノプラザの確かな技術でクルマの軽量化をサポート

平成25年1月16日(水)から18日(金)まで、東京ビッグサイト(江東区有明)で開催される『クルマの軽量化技術展』は、クルマの軽量化に必要な材料、加工技術、軽量化部品などが一堂に会する専門技術展です。

都産技研多摩テクノプラザの電子・機械グループは、3D-CADによる設計とCAE解析、3Dプリンタによる部品試作、および開発品の性能試験に関する展示を行います。ぜひお越しください。

3D-CADによる設計とCAE解析

製品の強度・剛性を保持しつつ、軽量化を進める設計を行うにはCAEの利用が有効です。会場では、3D-CADによる設計・CAE解析事例をご紹介します。



図1 3D-CADおよびCAEシステム



図2 3Dプリンタ外観(左)と試作事例

3Dプリンタによる迅速試作

3Dプリンタを利用すれば、作成した図面から、すぐに試作品が製作できます。図面からでは得られない製品の詳細なイメージや質感を感じることができます。

機能評価のための性能試験

開発品の機能を評価するには性能試験が欠かせません。万能試験機や疲労試験機、振動試験機などを用いた各種試験の内容を紹介します。



図3 万能試験機による性能試験(CFRPパイプの圧縮試験)

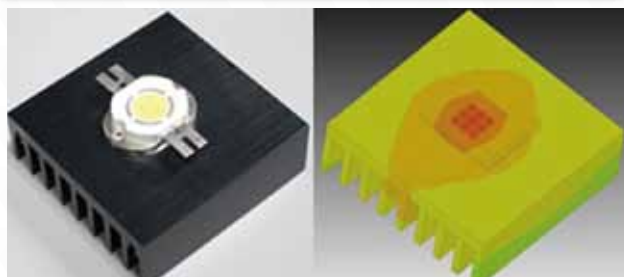
自動車部品の軽量化や試験等の各種ご相談、共同研究等のご相談も、お待ちしております。

電子・機械グループ <多摩テクノプラザ>
西川 康博 TEL 042-500-1263
E-mail: nishikawa.yasuhiro@iri-tokyo.jp

展示会出展情報

第3回クルマの軽量化技術展

参加費
無料



近年、安全性や快適性の追及によりクルマの質量やサイズが増大する中、燃費向上のためにますます重要になる軽量化技術。

本展は、クルマの軽量化に必要なあらゆる素材・材料、加工技術、軽量化部品などが一堂に出展する世界唯一の専門技術展です。

都産技研からは、情報技術グループ、機械技術グループ、電子・機械グループが出展します。

平成25年1月16日(水)～18日(金)
10:00～18:00 (18日は17時まで)

●会 場 東京ビッグサイト
東ホール(江東区有明3-11-1)

●入場料 無料(登録制)

●展示内容(予定)

- ・熱流解析システムによる効率的な熱設計のサポート
- ・軽量異種金属の摩擦攪拌接合(FSW)による複合化
- ・高速造形機による部品の試作、CAEによる強度解析 など

第15回東京FPGAカンファレンス with プログラマブルデバイスプラザを開催

参加費
無料



セミナー風景

電子機器や組込みシステムを開発している技術者の皆さまに向けた「東京FPGAカンファレンス with プログラマブルデバイスプラザ」を、NPO法人FPGAコンソーシアムとの連携で開催します。

今年のテーマは「プログラマブルデバイスで広がる可能性!」と題し、FPGAだけでなく他のプログラマブルデバイスにまで拡大した内容を予定しています。恒例のスペシャルセッション企画、最新分野の製品展示やデモ、出展社セミナーなど、最新情報満載となっており、プログラマブルデバイスの今後の動向を掴むには打ってつけのチャンスです。都産技研からは情報技術グループの研究成果等を発表・展示します。是非ご参加ください。

平成25年1月25日(金) 10:00～17:00 (予定)

●会 場 都産技研本部2F 東京イノベーションハブ

●参加費 無料(事前登録制)

●ホームページ

<http://www.fpga.or.jp/3city2012/city2012.html>

平成25年度新製品新技術開発・市場開拓助成事業説明会のご案内 ～中小企業の経営や技術の活性化の取組を支援します～

公益財団法人東京都中小企業振興公社では、中小企業が行う新製品や新技術の開発、国内外の見本市への出展等の取り組みにかかる経費の一部を助成する事業を行っています。

このたび、平成25年度の助成事業について下記のとおりで募集説明会を開催します。

1. 開催日時・会場 平成25年1月22日～2月14日、全9回開催

回	日 時	会場・定員
第1回	平成25年1月22日(火) 14時00分～16時00分	(公財)東京都中小企業振興公社 多摩支社2階大会議室 昭島市東町3-6-1 産業サポートスクエア・TAMA 定員:100名
第2回	平成25年1月23日(水) 14時00分～16時00分	(地独)東京都立産業技術研究センター 本部2階 東京イノベーションハブ 江東区青海2-4-10 定員:250名
第3回	平成25年1月24日(木) 10時00分～12時00分	(公財)東京都中小企業振興公社 中小企業会館9階講堂 中央区銀座2-10-18 定員:100名
第4回	平成25年1月24日(木) 14時00分～16時00分	(公財)東京都中小企業振興公社 本社3階第一会議室 千代田区神田佐久間町1-9 定員:200名
第5回	平成25年1月25日(金) 10時00分～12時00分	(公財)東京都中小企業振興公社 本社3階第一会議室 千代田区神田佐久間町1-9 定員:200名
第6回*	平成25年1月28日(月) 14時00分～16時00分	(公財)東京都中小企業振興公社 城東支社2階中会議室 葛飾区青戸7-2-5 定員:50名
第7回*	平成25年1月29日(火) 14時00分～16時00分	(公財)東京都中小企業振興公社 城南支社2階東京都研修室 大田区南蒲田1-20-20 城南地域中小企業振興センター 定員:80名
第8回*	平成25年1月31日(木) 10時00分～12時00分	(公財)東京都中小企業振興公社 本社3階第一会議室 千代田区神田佐久間町1-9 定員:200名
第9回*	平成25年2月14日(木) 14時00分～16時00分	東京都立産業貿易センター浜松町館 2階展示室 港区海岸1-7-8 定員:150名

*新製品・新技術開発助成事業のみの説明です。

2. 参加方法

- ・説明会参加には事前のお申し込みが必要です。
- ・(公財)東京都中小企業振興公社ホームページよりお申し込みください。ホームページからお申し込みできない場合は、お電話でお問い合わせください。

●ホームページ

<https://www.tokyo-kosha.or.jp>

●お問い合わせ

産業労働局商工部創業支援課 TEL 03-5320-4694 (公財)東京都中小企業振興公社助成課 TEL 03-3251-7895

※イベントの詳細は、都産技研ホームページ【イベントスケジュール】(<http://www.iri-tokyo.jp/joho/event/>)をご覧ください。

コンバートEV、 多摩テクノプラザを出発

「次世代自動車技術研究会」は、多摩テクノプラザを中心に活動する技術研究会で、電気自動車（EV）やハイブリッド、燃料電池車などの次世代自動車技術について情報交換を行っています。



▲GO WEST出発式（多摩テクノプラザ本館前）
約8時間の充電で約70km進むことができる

ます。このたび次世代自動車技術研究会の会員企業が、自作コンバートEV（スバルサンバー）の長距離走行実証実験を行いました（次世代自動車技術研究会が協力する「GO WESTプロジェクト」）。11月9日に多摩テクノプラザ（東京都昭島市）を出発し、途中、充電ポイントを探しながら東海道を西へ。EVの課題を見出しつつ、各地で情報交換をしながら11月17日に無事、愛知県名古屋市の到着しました。

詳細はURL（<http://tokyoev.jp/go-west/>）をご覧ください。

東京都農林水産振興財団と 協定を締結

12月7日（金）、都産技研と公益財団法人東京都農林水産振興財団（理事長 松本 義憲）が業務連携に関する協定を締結しました。今回協定を締結したことにより、個別の連携を組織的な連携へと発展させることで、相互の技術相談や共同研究などの農工連携が強化され、新製品や新技術の開発などの促進をはじめとした東京の産業振興を、より一層向上させていくことが可能となります。

なお、東京都農林水産振興財団が、単独の機関と協定を結ぶのは、今回が初めてとなります。



▲松本理事長（左）と片岡理事長

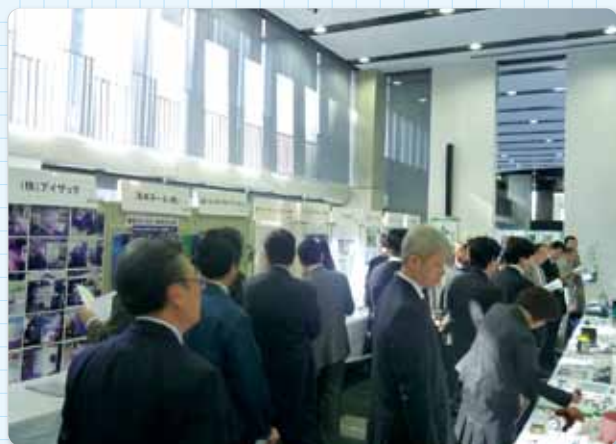
第28回東京都異業種交流グループ合同交流会のお知らせ ～一般の方のご来場もお待ちしております～

■東京都異業種交流グループとは

都産技研では、さまざまな業種の企業が集まり、お互いの技術やノウハウを提供し合って、新分野進出への方向性を探ることを目的に、東京都異業種交流グループの結成・活動支援を行っています。本年度は、本部と多摩テクノプラザで新たにグループを結成し、現在23のグループが活動しています。

■合同交流会を開催します

「合同交流会」は、年1回、全グループが一堂に会し、相互連携・情報交換を図るイベントです。本年度は2月14日（木）に「がんばろう中小企業（東京から発信）」をテーマに、①基調講演、②展示会（自社技術や製品紹介）、③ビジネスマッチングタイムを実施します。来場者とのふれあいの中で、新たなビジネスチャンスが芽生えることを目指しています。



▲平成23年度合同交流会 展示会

- 日程 平成25年2月14日（木）
- 場所 東京都立産業技術研究センター
本部（江東区青海2-4-10）

入場無料

プログラム（予定）

1. 基調講演（10:40～11:40）
2. 展示会（製品紹介等）（10:30～16:30）
3. ビジネスマッチングタイム（15:30～16:30）
4. 懇親会（会費制）（17:00～18:50）

※詳細は都産技研ホームページ「異業種交流」をご覧ください。

http://www.iri-tokyo.jp/kouryu/igyoushu/kouryukai_28kai.html

お問い合わせ：技術経営支援室 産業交流係 TEL：03-5530-2134

E-mail：sangakuko@iri-tokyo.jp